

和歌山県下から収集したクマノザクラの開花・成長特性

林業試験場 経営環境部 山下 由美子

〔はじめに〕

野生種であるクマノザクラの保全と活用には、花が大きいなど観賞価値が高いと考えられる優良な系統を選抜する必要がある。集団選抜育種の過程は、各地に生育する集団から優良と思われる個体（以下、優良候補木）を選び（1次選抜）、挿木・接木により増殖した苗木を同一地に植栽して、成長が良く植栽目的に合致した形質を示す個体を2次選抜する。当场ではR2年度から収集・増殖した優良候補木の苗木を同じ苗畑に植栽し、調査を行っている。本発表では、植栽木の成長や開花特性を明らかにし、優良系統について考察する。

〔調査方法〕

県内10市町村からクマノザクラ71個体を優良候補木として選び（図1）、挿木及び接木によるクローン増殖と実生増殖を行った。増殖した苗木を中辺路試験地内の苗畑で1～2年育成した後、植栽地検定を行う第3苗畑に移植した（図2）。その後、毎年秋に樹高、根元径（地上高30cm）を測定した。2024年2月から4月にかけて、3～4日おきに開花状況（開花の有無、開花花数）の調査を行った。

〔結果と考察〕

- ・植栽地検定に供した苗木の内訳は、クローン増殖（挿木・接木）が69系統225本、実生増殖が8系統10本である（表1）。2025年2月の苗齢は2～7年で、平均樹高は3.1mであった。
- ・2024年春に開花した個体の開花開始日は2/26～4/2で、開花の早い個体と遅い個体で36日間の差がみられた。最終開花日は3/14～4/9で、早い個体と遅い個体で26日間の差がみられた。開花期間は4～28日間、平均開花期間は9.2日であった。これに対して、付近に生育している‘染井吉野’（成木）の開花開始日は3/29、最終開花日は4/9、開花期間11日であった。最多花数は3～292（平均36）で、苗齢が高くなるほど多い傾向にあった（図3）。苗齢3年で着花数50以上の個体は12本（11系統）確認できた。
- ・開花個体の花色や花径は、野外で観察した成木の花形態と概ね似通っていた（図4）。
- ・未開花の42系統94本については、今後追跡調査を行っていく予定である。
- ・本県のクマノザクラには、開花時期が非常に早い個体、遅い個体あるいはその中間の個体が存在していること、開花期間が長い個体があること、幼齢で着花数が多い個体があることが分かった。これらの情報は、特徴のあるクマノザクラの選抜に貢献するだけでなく、‘染井吉野’を植え替えてクマノザクラを植栽する場合には、開花期が遅い個体、公園など長期間にわたって花を楽しみたい場合は、開花時期の異なる個体を混植するなど、開花期や花の形態に関して多様な観賞ニーズに対応できると考えられる。



図1 クマノザクラの採取位置



図2 植栽地検定の様子

表1 植栽地検定に供した苗木の概要

増殖法	苗齢 2025.2	クローン数	本数	開花個体数			平均樹高 (cm)	平均幹径 (cm)
				2022.3	2023.3	2024.3		
接木	2	12	24		0	0	155	1.5
	3	19	49	0	0	4	244	2.6
	4	41	125	0	13	90	333	3.9
挿木	5	5	17	0	4	16	342	4.4
	7	5	10	3	5	8	362	4.9
実生	7	8母樹	10	2	9	9	348	4.1

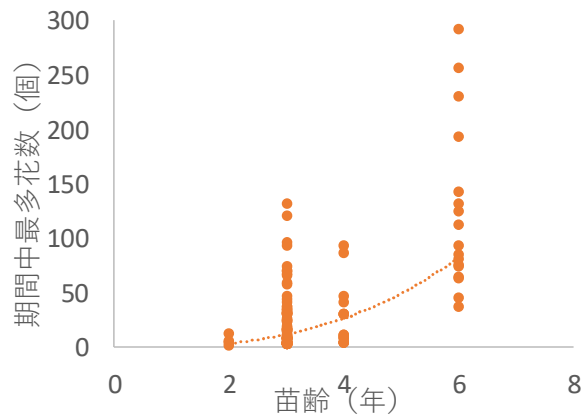


図3 苗齢と期間中最多花数の関係



図4 苗畑で開花したクマノザクラの様子